

特定非営利活動法人おせっ会

2019 年台風 15 号・19 号

災害復旧活動 中間報告

2019 年秋に発生した台風 15 号・19 号の被害は、南房総地域では甚大な規模となり、NPO おせっ会では平素より活動をしている館山市において、災害復旧事業を新たに準備し、取り組んで参りました。

災害復旧の分野にはまったく知識もなく、また元々南房総地域は自然災害の少ない場所でもあったことから、文字通り「未曾有」の事態となり、大きな危機に直面しました。それでも、なんとか一定の復旧成果をあげることができ、地域のお役に立てる現状は、全国から駆けつけてくださりボランティア活動へご参加頂いた多くの皆様と、この活動を支えてくださいました多くの寄付者の皆様のおかげに他なりません。

まだ、復旧から復興へとつなぐ道は厳しく、長いものとなりますが、ここまでの感謝をこめて中間報告を本書面をもってさせていただきます。

本来でございましたらお一人ずつ、一団体ずつへ参上しお礼をも仕上げるべきとは存じますが、書面にての報告をご容赦ください。

2020 年 4 月

特定非営利活動法人おせっ会

作成者: 八代健正



活動経緯

2019年台風15号、19号により過去にないほどの大災害となった館山市の、特に被害が深刻だったうちの一地域「富崎地区」にて、多くのご支援をいただきながら復旧活動を実施。

発災直後は任意の設置としてボランティアセンターの形式を取り、富崎地区区長会との連携により作業ニーズの収集とボランティア作業にご参加くださる皆様の振り分けを行い、災害復旧に努めました。開始当初は、破損した屋根をブルーシートで被う作業、地域内に散乱している瓦礫の撤去、運搬、集積や雨漏りで濡れてしまった家財の搬出、清掃などの作業を日々、多くのボランティア作業に頼り続けておりました。

被災した人々からの悲痛な助けを求める声にこたえ続けたものの、一向に減らない作業を前に途方に暮れる日々。そのような中でも、多い日で100名を超える皆さんが駆けつけてくださり助けて頂いたことは本当に救いとなり、今なお、尽力を続けて下さっている方が多く存在することに心よりの感謝を申し上げます。

10月に入り、一度、落ち着きを見せ始めた作業の数でしたが、立て続けの悪天候に見舞われ、作業のやり直しも多く出てしまいました。また、10月の長雨は破損した家屋内にカビを繁殖させ生活環境の劣化を招き、家を諦める人が増え始めることとなりました。

さらに、運悪く台風19号が15号に近い規模、進路で接近、今回は事前に避難を促進する広報につとめ、マイクロバスを用意して地域の方を避難させることに至りました。

その後、19号台風は、長野県を中心に大災害となったため、ボランティアの人数が分散してしまう形となり、11月以降はほぼ近隣に住む少人数を中心に活動を継続する形へと変わってゆきました。

年が明け、この地域独特の季節風が吹き始めブルーシートで被う補修の方法に限界を感じ、アメリカから輸入するシュリンクラップという素材を導入、トレーニングを受けるなどして施工を開始。

現在抱える課題は、屋根の雨漏りが未だに止まらず繰り返し、工務店も工事依頼が多すぎるため手が回らず順番が回ってこない。長期化する屋根の保護やり直しを継続して行う必要が出ているということ、そして暖かくなりカビの再燃現象が起き始めていること、廃棄できない屋根瓦などが未だに地域内の山積みになってしまっていること。また被災の影響をうけ、家を諦めるひとが増えることによる、人口の減少はこの地域の存続にかかわる大きな問題となりつつあります。多くの家が空き家に転じてしまっているためケアがされなくなっている現状もあるため、今年、来年と続く台風による被害の拡大が懸念されるところでもあります。

◇これまでの活動内容（主なスケジュールのみ記載）

9月13日より富崎地区復旧作業を開始

9月19日より富崎地区ボランティアセンターを運営

ボランティア様募集、地域区長会との連携による復旧ニーズの収集・作業配置手配
瓦礫の撤去・運搬 家財搬出 屋根へのブルーシート展帳 館山市との連携調整
瓦礫仮置き場の手配、整理そのほか、4以上を富崎地区区長会と連携のうえ実施。

9月28日より社会福祉協議会との連携により正式にボランティアセンターを運営

※作業内容は同上 毎日継続。（雨天は危険なため中止）

10月11日 台風19号接近に伴い、富崎地区の避難送迎（レンタカーバス）

10月18日 ブルーシート張り方講習会を開催参加30名

11月15日～11月17日 富崎地区全戸調査（現状把握）

協力：地域包括支援センター

1月23日～2月6日 豊房地区の被災農家にてビニールハウス撤去作業

<備考>

3月に入り、新型コロナウイルスの拡散が深刻になるに従い、多くのボランティア参加者を集めることにも不安があるため、少人数地域内居住者での活動を余儀なくされている。

ご寄付、助成金について

◇資金、ボランティア活動へのサポートをしてくださった団体、個人（順不同）

株式会社ワイエスコポレーション様 サボウズ様 SAVE THE HIROSHIMA 様 NPO 法人 BOND & JUSTICE 様
Church World Service Japan 様 智山青年連絡会様 安房合同青年会様 多田智子様 山崎健太郎様
BAR little life 様 東田トモヒロ様 新潟チーム様 諏訪田製作所様 タダフサ様 HEARVEST 様 権十穂様
TRIANGLE 様 麵処 清水様 スパイス研究所様 世田谷区立船橋中学校卒業生様 有限会社 永塚製作所様
Surfers 様 大城朋子様 六魂会様 藤野電力様 災害支援レスキューアシスト様 NGO オペレーション・ブレスリング・
ジャパン様 HOTSQUALL 様 Roots Factory 様 大森圭三様 NPO 法人 Lily & Marry's ヤマムラセイジ様 千葉
フィットネスクラブコミュニティー様
NPO 南房総リパブリック様 ニシオカタケシ様 ヤマシタショウイチロウ様 サカキダナオミ様 福島 LOVE 会様
三橋晃様 石井真英様 石井綾様 館山小金農園様 石黒陽子様
地域包括支援センター様 館山市 館山市社会福祉協議会

（以下、活動助成金申請先）

赤い羽根共同募金会様 ちばの WA 地域づくり基金様 Church World Service Japan 様

全国の皆様からお預かりしたご支援金は、富崎地区での活動資金として、ガソリン代、屋根補修資材費、工具購入などに活用、今後も長期化してしまいそうな富崎地区の復旧活動を支える力として使わせて頂き、

おせっ会としては、一日も早い復旧をそして、皆が館山に住みたい！住み続けたい！と思っただけの美しいふるさとに戻すことを目指して参ります。

会計報告について

寄付金額 1,574,799 円 助成金額 3,500,000 円

寄付・助成金合計額 5,074,799 円

(支出)

	内容	金額	備考
人件費	専任事務局員	1,880,000	一日 8,000 円
資材費	シュリンクラップ 12/11	496,980	株式会社雪風 屋根を覆うシート
	シュリンクラップ 03/05	509,025	株式会社雪風 屋根を覆うシート
	電解酸性水	920,550	株式会社テックコーポレーション(カビ清掃用)
	木材	38,973	忍足材木(屋根補修用)
	〃	227,205	〃
	金具	65,688	コメリ大神宮店(屋根補修用金具)
	作業用使い捨てツナギ	41,108	カビ除去作業用紙製ツナギ
	清掃用紙タオル	6,126	カビの清掃に使うペーパータオル類
	防水テープ	19,608	屋根ほか防水用テープ
	ガラ袋	2,094	瓦礫等用袋
	単管パイプ	4,356	金属製パイプ
	木材	5,100	不足分買い足し(コメリ大神宮店)
	電解酸性水	25,000	12/6 購入分
備品	安全備品(1)	105,803	ハーネス、ザイル、カラビナ
	安全備品(2)	46,941	ザイル、カラビナ
	安全備品(3)	16,480	ヘルメット
	その他工具類	87,084	ハサミ、タッカー、タッパ、スコップ、スクレーパー、バケツなど
燃料費	活動車両燃料費	103,644	ダンプ、軽トラ燃料、活動参加者車両燃料費
保険費	ボランティア保険	117,350	有限会社ばんどう保険サービス
食費	活動時食費	58,778	活動中の弁当配布(全戸調査時など)
その他	ゴミ処理手数料	2,240	活動ゴミ処分費用
	コピー費	3,310	回覧板作成
	バス借り上げ費	39,941	10月11日避難誘導の際利用
	合計額	4,823,384	

残高	251,415
----	---------

(口座内 234,355 円 現金 17060 円)

活動記録



発災直後に、おせつ会にて調査のために飛ばしたドローンにより撮影。

全戸 440 世帯中、85%にあたる家屋が被災、その多くは屋根、外壁を台風の風により破損。同時に雨漏りが発生した。高齢者比率が 65%というこの地域において、自力での復旧は難しいものとなった。被災後、6 日間にわたり電力が断たれた。



地域内には、台風で破損した家々の瓦、外壁、そしてそこから吹き飛ばされた家財などが散乱し、車の通行はおろか足の踏み場が無いほどだった。それを手作業で回収、片付け作業にあたることになった。しかしながら、自治会、行政ともにこの未曾有の状況に対応することができず、災害ゴミの仮置き場確保は最初の課題となったため、現地の独断で民間の私有地を提供頂き、仮置き場とした。その土地も数日で被災ゴミの山となってしまった。

瓦礫、被災家財の回収は多くのボランティアの皆様の手により行った。

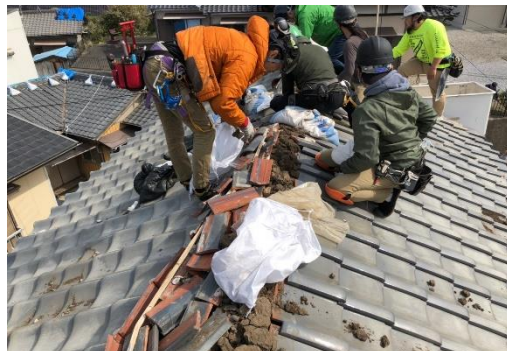
災害支援団体から、3 t ダンプの貸し出しがあったほか、軽トラックを持ち込んでくださった多くの皆様のご支援により作業の効率もあがることとなった。後日、行政の手によりこの被災ゴミは処分できることとなり、館山市のごみ処理施設まで移動、1 2 月にはキレイに片付けることができた。



富崎地区の区長会との連携により、富崎公民館にボランティアセンターを設置。ボランティア募集、作業依頼の整理、割りふりを実施した。発災当初は、作業に参加くださる人数が100名を超える日もあり、非常に心強かったが、作業依頼が一日70件を超えており、日々処理することが困難だった。

家屋の屋根をシートで覆う作業も同時に開始。これも多くのボランティア作業により実施。

屋根上の作業は高所での作業となるため、ヘルメット、ハーネス、ザイルなどを募金頂いた予算から購入、作業講習を経て実施。



作業に参加してくれる皆さんのうち、建築関連の業種の方もいて、指導してくれるケースも多



く助かった。基本的にボランティア作業は素人が不慣れな作業に従事することが通常なので、安全管理と並行で技術、ノウハウを仕入れ、作業効率をあげることは課題で常時通ってくれる皆さんの間ではその向上が見られる。



10月に入り、長雨が続き、月間21日もの雨天となった。

屋根が壊れた状態による雨漏りがひどくなり、気温も高めたため、カビ被害が拡大。作業用ツナギ、ゴーグルを準備して清掃業も行った。

10月末をもって、館山市の社会福祉協議会がボランティアセンター機能を閉鎖することを受け独自での活動をする事となった。

※その後も社会福祉協議会には、様々な協力を頂いております。

地域内の作業依頼も11月に入り少し落ち着いてきたこともあり、11/15～11/17の3日間にわたり富崎地区全戸調査を実施。被災から2ヶ月を過ぎた住民の状況把握、「お困りごと」の把握が目的。一日20名程度の調査活動参加者が集まってくださり、班分けをしたうえで住宅地図を塗りつぶしながらの1軒ずつ訪問。結果、さまざまな課題が新たに判明し、福祉的な課題は館山市包括支援センターへ報告しケアをお願いすることとなった。



一見、事態が落ち着いたように見えても、地域にはまだまだ問題が残り、住民は不安のなかで暮らしている事がよく理解できた。発災直後の混乱時期には頼みづらかったという人たちからの大型の依頼が年明けも続き、家財の搬出や、倒木の処理、地域の墓地のフェンス補修など作業が現在も続いている。



また、
発災後
に設置
したブル
ーシート

が紫外線により劣化、また富崎地区は一年中風が強い地域でもあるため、ブルーシートが持たず、やり直しを繰り返している。そこで、ブルーシートより強く、難燃性のシュリンクラップを使用しはじめた。作業は少し技術が必要となるが、紫外線にも強く2年ほど持つとのこと、ブルーシートに代わる素材として有効。今後も研究を重ねて実用を広めてゆきたい。

下の写真がシュリンクラップの施工例。

木材などでシートの端を家に固定し、覆ったシートをバーナーで炙る。熱により収縮して張りができるため、風に煽られづらいという強さもあり、この地域では有効な素材である。



屋根作業は、1回の作業につき、高所で作業するというリスクが付きまとい、できれば早めに終息させたい作業ではある。



カビの清掃



用に、そして新型コロナウイルス拡大を防止にも効果があるとされる「電解酸性水」を地域内に無料配布をした。

近距離での接触が気になることではあったが、期せずして、久しぶりに地域内の人同士が顔を合わせる機会となり、地域のひとたちの喜ぶ顔に会え、ホツし

た。

今後の活動について

多くの皆様に支えられ継続してやってきた復旧活動の今後は、もう一度この地域の元気を取り戻す！という「地域復興」へ舵を切って参りたいと考えております。

現在新型コロナウイルスの感染拡大により、地域外から定期的にこの地域を支援し続けてくださった皆様のお越しをお願いすることもできないなか、地元のメンバーでやれる範囲でコツコツと続けておりますが、作業の遅れは否めません。今後、巻き返しを図り頑張っけてゆきたいと思ひます。

現在、台風をきっかけに大幅に減ってしまった住民数、それにより地域の力が衰退しており危機的な状況です。館山のなかでも本当に美しい漁村富崎にいつか元気が戻るまで、そして後世に引き継げるような場所として残せるよう、以下のような計画をもって活動を計画して参ります。

- 1、地域内の被災者ニーズの確認 ⇒ 家屋/家内の仮補修 ⇐ 補修実施（概ね6月いっぱいを目標）
- 2、地域の状況調査実施（台風被災後の回復確認、困りごと、不安調査）
- 3、空き家調査（おせっ会の空き家バンクに登録）⇒ 移住促進につなげる。
- 4、空き家活用モデル作成 ⇒ 1軒の空き家をセルフリノベーションする（ボランティア募集）⇒活用モデルハウスとして活用
- 5、富崎地区への移住見学会実施 ⇒ 移住促進
- 6、その他

夕陽に映える美しい漁村「富崎」地区を小さいながらも活気のある元気な地域に戻したい。地域の方たちは、自分たちの故郷に誇りを持ち、地域外から訪れる人たちは、その美しさに惚れ込み通いつめ、中には新たにこの地の住人になる方もいます。館山市の移住促進をしているなかで思う館山の魅力は、こういった素朴で、自然に抱かれた村落が脈々と歴史を重ね、命をつなぎ続けていることも大きいと感じております。

私たちは、富崎地区を諦めることができません。いま、この村を、もう一度元気にし、次の世代に引き継ぐということは、館山市のみならず、日本の魅力を残し、継承する小さくも確実な未来への一歩となるはずです。

傷ついた地域が皆様のお力をもって、少しずつ癒されています。ここからは、いよいよ地域復興です。これまで、ご尽力くださいました皆様、そして富崎地区の皆さんと一緒に、頑張っけて参ります。引き続きのご指導を賜れますと光栄に存じます。

特定非営利活動法人おせっ会
代表理事 八代健正